

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪国際大学・短期大学部 1号館	階数	地上6F、地下1F
建設地	大阪府守口市藤田町6-74他26筆	構造	S造
用途地域	第2種中高層住居専用地域	平均居住人員	2,000 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2013年7月1日
敷地面積	31,922 m <sup>2</sup>	作成者	安井建築設計事務所
建築面積	1,647 m <sup>2</sup>	確認日	2015年3月10日
延床面積	10,222 m <sup>2</sup>	確認者	安井建築設計事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	77%
③上記+②以外の	77%
④上記+	77%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	3.4
温熱環境	3.6
光・視環境	3.0
空気質環境	3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

機能性	3.8
耐用性	3.2
対応性	3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.9

生物環境	3.0
まちなみ	5.0
地域性・	3.5

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

建物の	3.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

水資源	3.4
非再生材料の	3.8
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

地球温暖化	3.9
地域環境	2.6
周辺環境	2.7

3 設計上の配慮事項	
<p><b>総合</b></p> <p>新たな学習環境向上とグローバルな知的探究心を追求する学生交流の新拠点であるこの建物は、狭小な敷地であるため既存建物と同位置での建替えとした。守口市まちなみ賞を受賞している緑あふれるクスノキのキャンパス街路に配慮し、その緑を最大限享受できるガラスの大開口建具を採用することで、自然光の利用や自然通風の積極利用を図っている。また、既存樹の保存に努め、再びキャンパス内に「文化の丘」として再生するなど歴史性の配慮にも努めている。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価しにくい環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>講義室の温湿度に最大限配慮し、空調レターン(還気)は壁面レターン方式とし、暖房時の垂直温度勾配を縮小化している。また、窓際にペリメーターファンを設置し、窓面負荷の侵入を低減化している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>講義室や共用部にゆとりを持たせ、内装仕上に天然リノリウムの床や掲示板を各所に採用し、各所に女性用のパウダールームを配するなどアメニティを充実させた環境配慮型校舎を目指している。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>外壁や窓を通しての熱損失を防止し、空調機エネルギーの効率的利用を図っている。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>再利用部材の採用やリサイクル材の利用、汚染物質含有材料の使用回避など、できる限りの環境配慮を行っている。</p>
	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>既存の環境保全、景観への配慮を重視し、既存樹の移植保存、積極的な屋上緑化を図っている。また、キャンパスアメニティにも配慮し、広々としたオープンスペースやキャンパスストリートを設け、地下には中</p> <p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>キャンパス内に交通負荷抑制のスペースやゴミ分別回収を容易にするスペースの確保を行い、周辺環境に配慮している。また、日照障害の抑制として日影規制を満たし、光害対策に配慮した間接照明の多用に取り組んでいる。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム

## 大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存2010V1.03

<b>【建物概要】</b>	建物名称	大阪国際大学・短期大学部 1号館		
	建設地	大阪府守口市藤田町6-74他26筆		
	用途/区分	学校		
<b>【評価結果】</b>	CASBEE 総合評価			A
	CO2削減			4
	省エネ対策			3
	みどり・ヒート アイランド対策			3
	エネルギー消費量の報告			報告しない

【評価項目】					
省エネルギー対策		① CO2削減			
		② 省エネ対策			
項目	評価内容	スコア	評価		
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.9	4		
② 省エネ 対策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 3」のスコアによる評価	建物全体	3.0	3
			住戸・宿泊		
	建物の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.0		
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0		
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0		
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価	3.0		
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価	3.4		
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない		
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策			
項目	評価内容	スコア	評価		
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	3.0	3		
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	2.0			
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0			
その他					
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項			
特に配慮した事項					